

社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成27年1月7日

計画の名称	1 宇都宮大学周辺地区都市再生整備計画											
計画の期間	平成25年度～平成29年度（5年間）					交付対象	宇都宮市					
計画の目標	<p>宇都宮大学周辺地区は、JR宇都宮駅から南東に約2kmに位置し、昭和47年に都市計画決定された宇都宮東部土地区画整理事業区域を中心に、周囲には国道4号、国道123号、主要地方道宇都宮真岡線が縦横断するなど、市街地を形成する上で高いポテンシャルを有する地区である。しかしながら、特に宇都宮大学東南部においては、狭隘道路や行き止まり道路が多く、無秩序な市街化が進んでいるとともに、地区内を通過する都市計画道路3・3・105産業通りは、宇都宮市内環状線のバイパス的路線として、中心部の交通渋滞の解消に資するものと期待されており、土地区画整理事業による更なる事業推進が必要となっている。また、本地区東部を流れる準用河川越戸川、大久保谷地川について未改修であるため、大雨時などに浸水被害が生じており、治水安全性の向上を図るため、関連事業の進捗と調整を図りながら、河川整備を進めていく必要がある。</p> <p>このため、市街地の面整備と合わせ道路、公園、河川など関連する都市基盤の整備等を進めることで、安全性・利便性の高い良好な住環境を有する生活拠点の形成を図る。</p>											
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 宇大東南部地区の居住人口を6,100人(H24)から6,300人(H29)に増加 宇大東南部地区において、狭あい道路（幅員4m未満）の割合を41.33%(H24)から28.67%(H29)に減少 準用河川大久保谷地川の浸水想定面積を16.24ha(H24)から14.76ha(H29)に減少 											
定量的指標の定義及び算定式									定量的指標の現況値及び目標値			備考
									当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H29末)	
	住民基本台帳等により、宇大東南部地区の「居住人口」を把握する。								6,100人	6,200人	6,300人	
	幅員4m以上の道路に接道していない宅地面積の集計により、宇大東南部地区の「狭隘道路率」を把握する。								41.33%	35.00%	28.67%	
	河川が氾濫した場合の浸水想定エリアの推計により、準用河川大久保谷地川の「浸水想定面積」を把握する。								16.24ha	15.50ha	14.76ha	
全体事業費	合計 (A+B+C)	10,629.5百万円	A	8,260.5百万円	B	2,369百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)		0.0%	
中間評価												
○中間評価の実施体制、実施時期												
中間評価の実施体制								中間評価の実施時期				
庁内連絡会議での検討、有識者からの意見聴取、モニタリング原案に対する市民からの意見募集								平成26年11月				
								公表の方法				
								市ホームページ及び事業担当課窓口にて公表				

1. 交付対象事業の進捗状況																
交付対象事業																
A 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H25	H26	H27	H28	H29			
1-A-1	市街地	一般	宇都宮市	直接	宇都宮市	宇都宮大学周辺地区都市再生整備計画事業	道路・河川・土地区画整理事業等	宇都宮市						8,260.5	別添1	
合計												8,260.5				
B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H25	H26	H27	H28	H29			
1-B-1	区画	一般	宇都宮市	直接	宇都宮市	宇都宮大学東南部第1地区(3・3・105産業通り外)	区画整理 A=48.2ha	宇都宮市						419.0		
1-B-2	区画	一般	宇都宮市	直接	宇都宮市	宇都宮大学東南部第2地区(3・3・105産業通り外)	区画整理 A=41.8ha	宇都宮市						1,950.0		
合計												2,369.0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考				
C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
															0	
合計												0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考				

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況												
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況				<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業を始めとした各事業効果により人口の増加が見られる ・土地区画整理事業による効果が発現し、着実に減少している ・バイパス工事が完了していないため、現時点では効果が発現していない 								
II 定量的指標の達成状況				指標①(宇大東南部地区の居住人口)	中間目標値	6,200人	目標値と実績値に差が出た要因	中間目標年度よりも早期に評価を行ったため。				
					中間実績値	6,153人						
				指標②(宇大東南部地区の狭隘道路率)	中間目標値	35.00%	目標値と実績値に差が出た要因	中間目標年度よりも早期に評価を行ったため。				
					中間実績値	40.22%						
				指標③(準用河川大久保谷地川の浸水想定面積)	中間目標値	15.50ha	目標値と実績値に差が出た要因	中間目標年度よりも早期に評価を行ったため。				
					中間実績値	16.24ha						
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)				より安全な通学路が設定され、児童の登下校の安全性が向上している。緊急車両の到達時間が短縮されている。町並みが統一され、新たな地域特性が創出されている。								
3. 特記事項(今後の方針等)												
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のまちづくりを支援するため、まちづくりの目標の変更や新たな公共施設の整備を検討する必要がある。 (今後の対応)住民相互の連帯を高めるとともに、地域コミュニティの強化を図るため、まちづくりの目標を見直すとともに、新旧住民の交流や住民活動の場の提供に係る事業の追加を行う。 ・地区内の浸水被害の解消を図るため、事業内容を見直す必要がある。 (今後の対応)地区北東部では、溢水の回数が増加しているため、準用河川越戸川について事業箇所及び事業量の変更を行う。 												

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	1 宇都宮大学周辺地区都市再生整備計画事業	交付対象	栃木県宇都宮市
計画の期間	平成25年度 ～ 平成29年度 (5年間)		

